## 高木伐倒事例報告

【第1日目】

とき: 平成22年1月13日(水)

ところ:伊賀市白樫。

参加者:湯浅明、湯浅真由子、石塚盛行、渡辺隆志、山田俊雄。

経緯:湯浅明氏の知り合いの人から、伐倒要請があり、彼の案内で有志による伐倒作業が行わ

れた。当日は快晴、西名阪、伊賀の道の駅で終結。湯浅明氏の案内で、現地に向かう。



依頼主の裏山、雑木が生えている。 伐倒対象木にテープを巻く。

太いクヌギ、4本が依頼対象木であり、その周辺の邪魔になる雑木も数本、伐倒することになった。

1本目、上の幹に、ロープをかけ、倒す方向を決める。 太い木の伐倒は、石塚盛行氏に任せる。

他の4人が、分担してロープ作業を行う。ロープは、 滑車 3 個、引っ張り具1基を使って、引っ張る。最 初に受け口切り。







左:受け口のチェック。



上写真:狙った位置に切り倒し成功。 すぐに枝、幹、を玉切りして、片付ける。

写真右:2本目、太い枝が2本、家の方に伸びている。木の重心は家の方にある。この2本を、先に切って、下に落とすことにした。

家と反対方向(重心に逆らって)に引っ張って、切り倒す計画である。

枝切りは、梯子をかけ、梯子の上あたりで切らねばならない。 危険であるので手順として、切り目を入れ、作業者が梯子から降り、梯子も外して、この後、ロープ、ワイヤーを引き、枝を折る作戦である。

昼食を挟んで、午後の作業から、湯浅氏の友人 にチルホールを借りることになった。手持ちの引っ 張り具は、挽き代が 1mほど、ロープも伸びるし、 作業効率があげられない。



## 写真下:枝切りの様子。



太い枝2本

枝切りは、ほぼ、計画通り、うまく処理できた。

チルホールのワイヤーを上の幹に取り付け、ロープも木が伐倒時、家側に倒れないよう補助的に取り付ける。

引き倒しは、予想に反し、木が回転して、家に沿って倒れた。



狙いは、家の反対方向に倒した かったのに・・・

重心の位置次第で、倒れ方が異なる。

すぐさま、枝、幹の玉切り、片付けに入る。



午後からの2本目、伐倒に取り掛かる。

ワイヤーは、上の幹に取り付け、補助のロープは、その下の太い幹に固定し、家の方へ倒れない ようにした。

引き倒しは、受け口、追い口を入れたのち、作業者が伐倒木より離れた場所に避難後、チルホールを使って、倒した。

倒れた瞬間は、地響き、風が起こり、迫力満点。怖いぐらいであった。





記念撮影:本日はこの片付けで終了となる。

残り1本、及び追加の伐倒依頼1本があり、日を改めて、出向くことになった。

(報告者:山田俊雄記。)

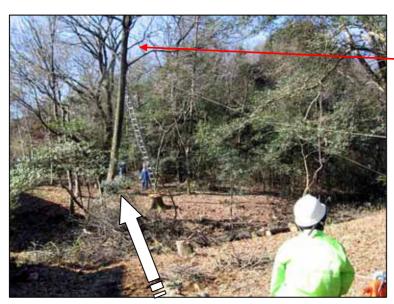
## 【第2日目】

とき: 平成22年1月27日(水)

ところ:伊賀市白樫。

参加者:湯浅明、石塚盛行、渡辺隆志、長谷、山内敬子、山田俊雄。

経緯:前回 1/13、倒せなかった雑木の伐倒、本日再度現地にて、実施となり、有志が参加した。 当日は快晴、風のな〈暖かな日であった。西名阪、伊賀の道の駅で終結。湯浅明氏の案内で、現 地に向かう。



1本目、上の幹に、梯子でロープをかけ、倒す方向を決める。

石塚氏持参のロープのチルホ ールを使用する。

伐倒木の周辺にある、雑木、3本も伐倒してほしいと言われ、本日の主作業(2本伐倒)後、除伐した。



ロープの取り付け終了。 梯子も外して、木の周辺も確認「よし」。 これより受け口づくりだ。



写真左: 受け口、切り込み後、伐倒方 向にヅレがないか、念入りに チェックする。 もしヅレていれば、修正する。

追い口作成にかかる。

太さがチェンソーのバー長さを超えているため、両側から切り込まねば届かない。

緊張の作業である。 切り手は、石塚盛行氏。 抜群の技量を発揮する。

右に見える切り株は、前回作業のもの。



楔を打ち込む。

楔を打ち、ロープによる引き補助とで、引き倒し にかかる。



うまく処理できました。

枝、幹の切り離し、片付け途中で、 昼食。

今日の2本目。 奥の林に生えている二股の雑木。手前側だけ伐倒してほしいそうだ。



この左に伸びている枝は、先に切り落とすことにした。木の重心が家側になっているのでこれを先に切ることで、重心位置を修正できる。梯子を掛け、この上の作業である。

家の傍に生えている樹集団、これもすべて除伐するよう追加依頼があり、主作業後処理することにした。



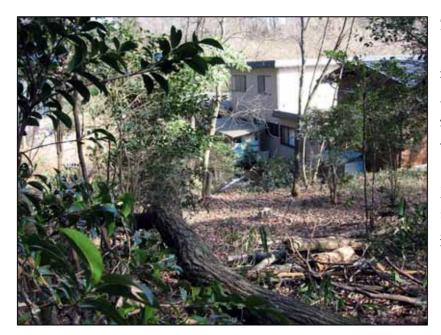
左に伸びている枝の切断完了。 引っかかるが、下に引き落とす。



二股の幹部分: 受け口をいれ、追い口にかかる。



伐倒された状態。



家との位置関係。

最後に追加依頼の雑木、 及び周辺の樹木数本を 処理して本日の伐倒、除 伐作業は終了。

玉切り、枝切り、片付け を終えて、資材を片付け、 退散となる。

作業中、また、昼食時、何かとお気づかい、差し入れなど、いただきました持ち主の旦那様、奥様 にお礼を申しあげます。

(報告者:山田俊雄記。)